

別紙3

## R6年度重点指導方策

R6年度のスタートに当たり、R5年度以前の活動を振り返り、活動が試合毎進歩する内容を期待し、重点指導方法を作成した。

### 1, 選手内面（心の強化）の育成

- 選手1人1人が主体的、かつ積極的にプレーする心
- 何時もおどおどせず堂々とプレーをする心
- 失敗を恐れずチャレンジする心
- 何事に動じない強い精神力を持つ心
- 選手がスキルアップしようとする心

### 2, 指導内容（確実な理解）推進

- 指導内容の正しい理解（選手個々に異なる理解をしている）
- 選手個々がスキルの理解（確実な球出、確実なパスとパス回し、確実なシュート、確実な速攻、確実にキャッチ等）
- 積極的攻撃力アップの理解（速攻、フォメショウン、選手の位置や動き、スペースシュの作り方等）
- 確実な守備力の理解（形、距離、プレッシャー、方向等）

### 3, ベンチワークの在り方

- 最後まで最善を尽くし、諦めない采配
- 選手が全力でプレー出来、満足感のある采配
- 相手チームに対する尊敬の念を込めた采配
- 選手の人格を尊重した掛け声采配
- 品格と品位ある采配

### 4, 実戦練習の強化

- スキルの修得とその実施を活かす方法
- 実戦練習量増で試合勘を増進（ゲーム作の向上）
- 基礎練習と実戦の相違を習得（オフェンスとディフェンス力向上）
- 実戦での自主性、主体性、意欲、工夫の意識アップ

### 5, 指導方法の提言

#### (1) 試合時叱る指導から褒める指導への徹底

- 理由： • 試合のたびごとに同様の指摘をされ、消極化防止  
 （試合時の指導が、理解され、実行されていない）  
 • 試合時は、主体性、自主性、意欲を期待

#### (2) 1つ1つのプレーにおける技術内容の理解、使い方の向上

- 内容： • 動け、パスで繋げ、ワンアーム、広がれ、ボードに当てる等  
 • シュートのタイミング、フォメション等

#### (3) 選手の意欲の向上

- 理由： • ボール取り合いの強化（ディフェンス時、リバウンド時、球出し時等）  
 • 相手主力選手へのディフェンス強化（ダブル対応の定着）

#### (4) ドリブルのスピード、アクセント、テクニックの定着化

### 6, 将来のための対応

- (1) ガードの育成
- (2) ドリブル、パスで繋ぐ突進力の強化
- (3) シュートの確実性の向上
- (4) ディフェンス力とオフェンス力の強化
- (5) あらゆる場面での意欲向上